

2/13 *Hirado City Photo News*
歌や体操などで元気に



生月町の塚本ハツさんが100歳の誕生日を迎え、市長が入所先のグループホームいなほを訪れ、花束と記念品を贈り長寿を祝いました。

ハツさんは、夫婦で農業やイリコ製造などで朝早くから夜遅くまで働いて、子どもを立派に育てました。その後は、グループホームいなほに入所し、仲間と一緒に歌を歌ったり、体操をしたりして、元気に過ごしています。

お祝い式では家族やひ孫に囲まれ、「今日は本当にありがとうございました」と嬉しそうに感謝の言葉を述べられました。

3/6 *Hirado City Photo News*
未来創造館入館者 10万人突破



未来創造館COLAS平戸の入館者数が10万人に達したことを記念して、式典を開催しました。

昨年8月に開館から記念すべき10万人目の入館者は、福岡県糸島市から来られた窪祐幸さんと千鶴子さんご夫妻で、平戸にはひらめまつりを目的に訪れ、途中、平戸城を見学した後に、偶然立ち寄ったということでした。

窪さん夫妻は、「こんなに眺めがきれいな施設があるなんて知りませんでした。こんな施設があるなら、また平戸にも訪れたいです」と話していました。

3/1 *Hirado City Photo News*
平戸のおひなさまを見たよ



「平戸城下雛まつり」が開幕し、市内4つの保育所、幼稚園から園児が参加してオープニングセレモニーが開催されました。平戸港交流広場では餅まきがあり、園児たちは夢中になって餅を拾いました。また、3日には、按針の館で「平戸幼稚園ひなまつり」も開催。平戸幼稚園が所有する青い目の人形のエレン・Cら計3体がひな人形とともに飾られ、まつりに華を添えました。園児らは歌や踊りを元気に披露したほか、「さあ、心の手をつなごう。戦争なんてない幸せの世界を作ろうよ」とエレン・Cの思いを発表しました。



3/15 *Hirado City Photo News*
好き嫌いせず元気に長生き



生月町の永田キノさんが100歳の誕生日を迎え、市長が自宅を訪れ、花束と記念品を贈り長寿を祝いました。

キノさんは、あご製造の傍ら、趣味の裁縫ではんてんや孫の着物を作ったり、家庭菜園などをしていました。現在でも洗濯は自分で行い、好き嫌いもなく何でも食べるなど、とても元気に過ごしています。

お祝い式では、家族に支えられ、自分の足で歩いて席に着き「ありがとうございました」と感謝の言葉を述べられました。

3/15 *Hirado City Photo News*
家族に囲まれ100歳の祝い



浦の町の内田キヨさんが100歳の誕生日を迎え、市長が入所先のケアハウスじゃんがらを訪れ、花束と記念品を贈り長寿を祝いました。

キヨさんは、夫婦でイリコ製造をしながら、7人の子どもを育て、仕事を終えてからは、大阪の息子の家で、孫たちと過ごしていました。その後、平戸に戻り、ケアハウスじゃんがらに入所し、毎日元気に過ごしています。

お祝い式では家族や施設の人、孫たちに囲まれて、緊張しながらも「ありがとうございました」と感謝の言葉を述べられました。

3/5 *Hirado City Photo News*
元気にウォーキング！



平戸の世界遺産候補を巡る、「松浦鉄道で行く春日集落と棚田walking」が開催され、市内外から参加者がありました。

まず、一行は「たびら平戸口駅」を出発し、生月町博物館「島の館」を見学した後、世界遺産候補である春日集落と棚田を地元のガイドの説明を受けながら歩きました。

この日は、絶好のウォーキング日和となり、参加した皆さんは普段なかなか見られない世界遺産候補の集落の様子や、絶景の棚田に感激した様子でした。

2/29 *Hirado City Photo News*
平戸は世界に誇れるまちである



平戸オレンジ商館で、古民家再生の第一人者であるアレックス・カー氏による講演会が開催されました。

日本の公共事業や将来の観光業について、景観という観点から語られた講演は、道路や護岸工事をする事で便利になる反面、景観形成が疎かとなり、「視覚汚染」となることを、電線、看板などを例に紹介しました。最後に、「平戸には本物の歴史がある。これだけの町屋や景観があることは、世界に誇れるので、もっと自分のまちにプライドをもってほしい」と話していました。

3/15 *Hirado City Photo News*
大きな「ヒラマサ」が2匹！



生月町中央公民館前の生月漁港防波堤の壁面(横20m×縦4m)に、生月小学校6年生の児童16人が卒業記念作品として、テーマである『未来へ向け飛翔』をコンセプトに「ヒラマサ」を2匹描いた壁画がこのほど完成しました。

この卒業記念の事業は、生月漁港防波堤壁面を一つのキャンパスに見立てて10年間の長期計画で実施していて、今回は3年目になります。

この日は、でき上がったばかりの作品の前で記念撮影を行い、児童たちは達成感に満ちたいい表情をしていました。

3/15 *Hirado City Photo News*
連携して人命救助



平戸市消防署において水難事故における人命救助を行った小西健亮さん、眞辺善市さん、増井アミさん、富永淳也さん(欠席)に対して消防長表彰が行われました。

4人は3月3日午後7時ごろ、鏡川町薄香漁港内において、海中に転落した女性を発見し、小西さん外2人が岸壁まで引き上げ救助しました。増井さんは、いち早く事故に気づき119番通報し救急隊の早期出動に協力しました。

眞辺さんは、「当たり前のことをしてだけです。助かって本当によかった」と話しました。

3/5 *Hirado City Photo News*
今年は菜の花畑にミニ動物園を開きました



多目的研修センター(南部公民館)前広場で、「第4回奥平戸菜の花まつり」が開催されました。

南部地区の活性化に取り組んでいる南部地域活性化協議会が主催し、南部地区への集客と交流を目的に毎年行われています。

今年は、県立北松農業高校の協力で、ミニ動物園や小学生以下を対象にした宝探しゲーム、餅つき、農畜産物バーベキューセットの販売、アスパラ収穫体験なども行われ、集まった子どもたちは、元気いっぱい笑顔で菜の花畑を駆け巡っていました。



3/22 *Hirado City Photo News*
根獅子で弥生時代の人骨出土



根獅子地区において弥生時代の人骨1体が発見されました。この場所は、弥生時代の墓地遺跡として知られる「根獅子遺跡」で、仰向けに膝を曲げた状態で埋葬されていました。また、砂地に埋められていたため、弥生時代の人骨としては保存状態が極めて良好で、古人骨の専門家で山口県土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム名誉館長の松下孝幸氏によると、「出土した人骨は、20代後半の女性と推測される。これだけ保存状態が良い人骨は、あまり例がなく、北部九州の古代史において非常に貴重な発見である」と話しました。

3/16 *Hirado City Photo News*
金賞(文部科学大臣賞)に輝く



全国の小学生を対象に、環境保全への取り組みの内容や活動、実行したことを日記にまとめる「第17回『みどりの小道』環境日記コンテスト」で、中津良小学校6年生の山田彩乃さんが最高賞の金賞(文部科学大臣賞)を受賞しました。日記では日々の暮らしで気付いたことや環境について興味を持ったことなどを3カ月間毎日記録。小学校で取り組むEM泥団子作りがきっかけで小学3年生から環境日記を始めた山田さん。「日記を通して深く学ぶことができました。身近なエコ活動をもっと広げたい」と受賞の喜びを話しました。

3/14 *Hirado City Photo News*
知事賞と教育委員会賞のW受賞



県内小・中学校および特別支援学校の小・中学部の児童生徒を対象に開催された、第61回長崎県児童生徒美術作品展「子ども県展」において、野子中学校2年生の松永奈乃子さんが「立体部門」で知事賞、「絵画部門」で教育委員会賞を受賞しました。

「立体部門」で、知事賞を受賞した作品は、小学校の時に使っていた思い出のバレーシューズをモチーフに作成され、「自分の足に合うような形に仕上げるのと、ボロボロの感じをだすのが難しかった」と話しました。

3/7 *Hirado City Photo News*
童画の巨匠黒崎画伯の胸像を建立



未来創造館COLAS平戸で、黒崎義介画伯生誕110周年記念胸像建立除幕式が開催されました。式では、主催者や来賓、度島町へき地保育所の園児らが除幕。物思いにふける仕草を表した画伯の胸像がお目見えしました。胸像は平戸図書館のテラスに置かれています。また、7日から12日まで「黒崎義介展」も開催され、ホールやロビー、図書館で童画や写真、日本画など未公開作品を含め合計119点が展示されました。訪れた人たちは、数多くの作品を通して、画伯の子どもへの愛情や郷土への思いを感じているようでした。